

氏名	江 口 純 治		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 甲 第 1295 号		
学位授与の日付	平成 6 年 3 月 31 日		
学位授与の要件	医学研究科内科系小児科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)		
学位論文題目	尿中NRK49-F細胞増殖促進活性の各種腎疾患の病態における 役割		
論文審査委員	教授 太田 善介	教授 大森 弘之	教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

小児の腎疾患におけるサイトカインの関与を明らかにする目的で、尿中生理活性物質の検討を、Transforming growth factor- β (TGF- β) によって増殖が促進されるNRK49-Fの培養細胞系を用いたbioassay系を構築し測定した。ネフローゼ症候群の再発時の尿にはNRK49-F細胞の増殖促進活性を認めた。この活性は抗TGF- β 抗体添加により、巣状糸球体硬化症 (FGS) の症例では阻害されたのに対し、微小変化群 (MC) の症例では阻害されなかった。またIgA腎症ではこの増殖促進活性が認められなかったのに対し、紫斑病性腎炎 (HSPN) ではこの活性を認め、抗TGF- β 抗体の添加により活性は阻害された。これら抗TGF- β 抗体による活性阻害が認められた尿ではWestern immunoblot法でTGF- β によると考えられるバンドが検出された。以上から、FGS群の再発では、MC群に比しTGF- β の関与が強いと考えられた。また、IgA腎症とHSPNは、その発症、進展に関与するサイトカインに相違があり、HSPNではIgA腎症に比し、TGF- β の関与が強いと考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は小児の腎疾患におけるサイトカインの関与を明らかにする目的で、尿中生理活性物質の検討を、Transforming growth factor- β によってbioassayしたもので、ネフローゼ症候群の種類によりサイトカイン量に相違があることなどを明らかにした。これは価値

ある業績であり，よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。